

みどりのワンポイント

園芸植物の冬越し

私達が接している多くの植物は寒さに耐えられるものがほとんどですが、原産地が熱帯、亜熱帯の園芸植物は寒さに弱いため対策をする必要があります。洋ラン、サボテン、多肉植物や観葉植物の多く、夏野菜や夏花壇の宿根草花、熱帯果樹・花木がそれに該当します。

初霜から終霜までの期間、温室やビニールハウスあるいは家の中に取り込んで加湿、保温することが必要となります。加湿、保温下では、最低気温が15℃以上あれば普通に生きられるので水も肥料も継続しても構いませんが、10℃前後から、特に5℃以下になると根の活力が低下するため肥料はやらず、水やりはできるだけ控えて、土の表面が乾いてから行います。サボテンと多肉植物は断水して、月1回、暖かい日に水やりを行います。



土を加湿し過ぎないようにしましょう。凍えて枯れる前に根腐れで枯れてしまいます。日光なしでは生きられないので屋内では窓辺で日に当ててください。15℃以上の加湿されたところに入れる場合、一定期間寒さに当てておかないと春に花が咲かないものもあるので11月いっぱいには野外で育てるのがよいでしょう。

(みどりの相談員 松尾 宏一氏)